

0-7

A 大学病院における経カテーテル大動脈弁植え込み術施行患者の術後せん妄症状出現の要因分析

○阿久津 武彦、青柳 恵子、池田 房代、
合谷木 万理、伏木 一美、富澤 育恵

獨協医科大学病院看護部

【目的】チェックリストを用いて経カテーテル大動脈弁植え込み術 (transcatheter aortic valve implantation 以下、TAVI) 施行患者のせん妄症状出現の要因を明らかにする。

【方法】2020年6月1日～2021年11月30日までA大学病院でTAVIを受けた患者の電子カルテから、院内共通のせん妄ハイリスクチェックリストに加え関連が予測される因子を調査し、せん妄が疑われる言動・行動と看護師の対応からせん妄症状あり群とせん妄症状なし群に分類し、調査項目を比較した。【結果】対象となった患者は、60名であり、そのうちせん妄あり群が14名(23.3%)、せん妄なし群が46名(76.7%)であった。

麻酔時間と術後食事摂取状況で有意差が認められた。【考察】TAVIを受ける患者は、年齢や挿入物などによりせん妄症状が出現するリスクが高い。術後はせん妄症状をいち早く発見するために、麻酔時間が長く食事摂取量が少ない患者の対応は重要である。

【結論】明らかに関連する因子は見出せなかったが、術後せん妄症状と関連があった因子は、食事摂取量と麻酔時間であり、これらはせん妄症状に関連する可能性がある。

0-8

連携充実加算における院外保険薬局との連携

○日向野 理輝、外山 智章、五月女 拓也、大塚 瑠里

獨協医科大学病院薬剤部

当薬剤部における連携充実加算の算定に伴う院外保険薬局との勉強会などの実施状況を報告する。連携充実加算は2020年の診療報酬改定において新設された。外来での抗がん剤治療の質を向上させる観点から、患者にレジメン(治療内容)を提供し、患者の状態を踏まえた必要な指導を行う等の連携体制を整備している場合に算定可能となった。その他算定条件に下記の要項がある。治療の状況等を共有することを目的に、交付した治療計画等の進捗に関する文書を保険薬局の薬剤師等に提示すること、他の保険医療機関または保険薬局から服薬状況、抗がん剤等の副作用等に関する状況が提供された場合には、必要な分析または評価等を行うことである。それ故当薬剤部と保険薬局との勉強会等を通じた連携は重要になる。2020年から算定を実施して見えてきた課題も提示する。